

JCD

Kansai

2015.3.Vol.70



私が考える 間接照明の 癒しの全てを あなたに



間接の女王のノウハウ満載で
アイデアが広がる
カタログ総頁数 約180ページ、
間接照明ノウハウ 約100ページのボリュームで
お届けします!

間接照明の女王
家元 あき
(TACT 大阪)

INDIRECT LIGHT LINE UP



ダブルライン

吹抜け空間に最適なハイパワータイプ



まぐちゃん

器具に幕板がついた画期的な薄型間接



かまぼこライン

光が広がる高拡散タイプ



デコライン

シンブルな形状はコーニス間接に最適



ひやくまる君

開口寸法100mmの省スペースでも美しく伸びる光



ミニライン

空間にアクセントをそえる適度な明るさ



さんかくライン

サイド間接など演出照明に最適



スイングライン

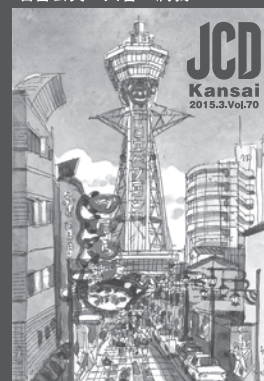
灯具が可動する間接照明

大光電機株式会社
本社/Tel.(06)6222-6240 Fax.(06)6222-6252
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3-2-7高麗橋ビル



JCD Kansai 2015.3 Vol.70

[表紙・水彩画]
「新世界通天閣」
名誉会員 大菅 満義



04 ● 報告

JCD関西支部活動報告

2014年度 JCD関西支部活動基本方針

2014年度 関西支部総会 ————— 末波 伸浩

06 ● 報告

委員会報告

2014年 日本の空間デザイン展 ————— 松本 浩作

2014年 大阪勤業展 ————— 松本 浩作

関西デザイン学生シンポジウム2014 ————— 松本 浩作

夏休み! 親子de体験セミナー こどもたちと創る空間 ————— 中村 裕輔

JCD関西支部 上方落語界 林家市楼氏によるトークショウ&懇親会 — 浦田 恭資

10 ● 特集

JCDデザイン賞

JCDデザインアワード 2014 総評 ————— 橋本 夕紀夫

大賞/金賞6作品

12 ● 報告

委員会報告

組織検討委員会の活動について ————— 東 潤一郎

2014年度 広報委員会活動報告 ————— 大東 俊也

13 ● 連載

Working Now

新入会員紹介 ————— 斎藤 俊二

2015年(平成27年)3月号
vol.70 平成27年3月発行
発行/一般社団法人
日本商環境デザイン協会
関西支部
〒559-0034
大阪市住之江区南港北2-1-10
ATCビル ITM棟10階A-1
(財)大阪デザインセンター内
Tel./Fax. 06-6613-5557

広報委員会
委員長/大東 俊也
担当理事/白井 進
委員/岡島 昇(副委員長)
斎藤 俊二 栄 隆志
佐藤 史仁 高橋 健太
村田みどり 森田 昭一
制作/グラフィックアーツ ベルテ

2014年度 JCD関西支部部事業基本方針

【組織検討委員会】

委員長：東潤一郎 相談役：金沢明彦

会員増強の強化策の検討

- ・正会員増強の為の策を検討。
- ・現在関西で活躍しているデザイナーの入会案内を積極的に行います。
- ・また、将来の入会のきっかけ作りとして「ジュニア会員」を、OB会員の受け皿として「シニア会員」の創設を目指します。本年度はまず、創設に向けて手法や枠組みを検討致します。
- ・特に、「ジュニア会員」につきましては、毎年行われている「関西デザイン学生シンポジウム」を、彼らの活躍の場と出来ればと考えます。

【広報委員会】

委員長：大東俊也 副委員長：岡島昇 担当理事：白井進

会員相互における情報の共有化 / JCDの見える化

- ・年1回のJCD Kansaiの発行
- ・facebookのさらなる活用、HPの強化他、JCDの広報活動や情報アーカイブづくり全般の実施。

【交流委員会】

委員長：浦田恭資 相談役：衣笠和宏

会員の親睦を図る交流会開催

- ・支部総会および夏のビヤパーティ及び年末のクリスマスパーティの開催
- ・各種イベントの実施支援

【研究委員会】

委員長：中村裕輔 副委員長：蒲秀樹 担当理事：末浪伸浩

デザインによる社会貢献 / 会員のスキルアップ

- ・SODA事業（26年度は8月23日(土)に決定。於：住まい情報センター）
- ・デザインの創造性を高めるためのシンポジウムの定例化を検討（JCDデザインサロンの創設など検討）

【新・賛助委員会】

委員長：山田悦央 担当理事：衣笠和宏

賛助会員との相互協力関係の構築

賛助会社のみなさんと会員とのコミュニケーションの場づくりを目的とした勉強会（JCD賛助サロン）を開設します。

内容：賛助会社の新製品の情報の発表、商品モニターとしての意見交換、会員と賛助会社の交流を図る。商環境ミーティング等を月1回のペースで実施します。

【デザイン団体連携委員会】

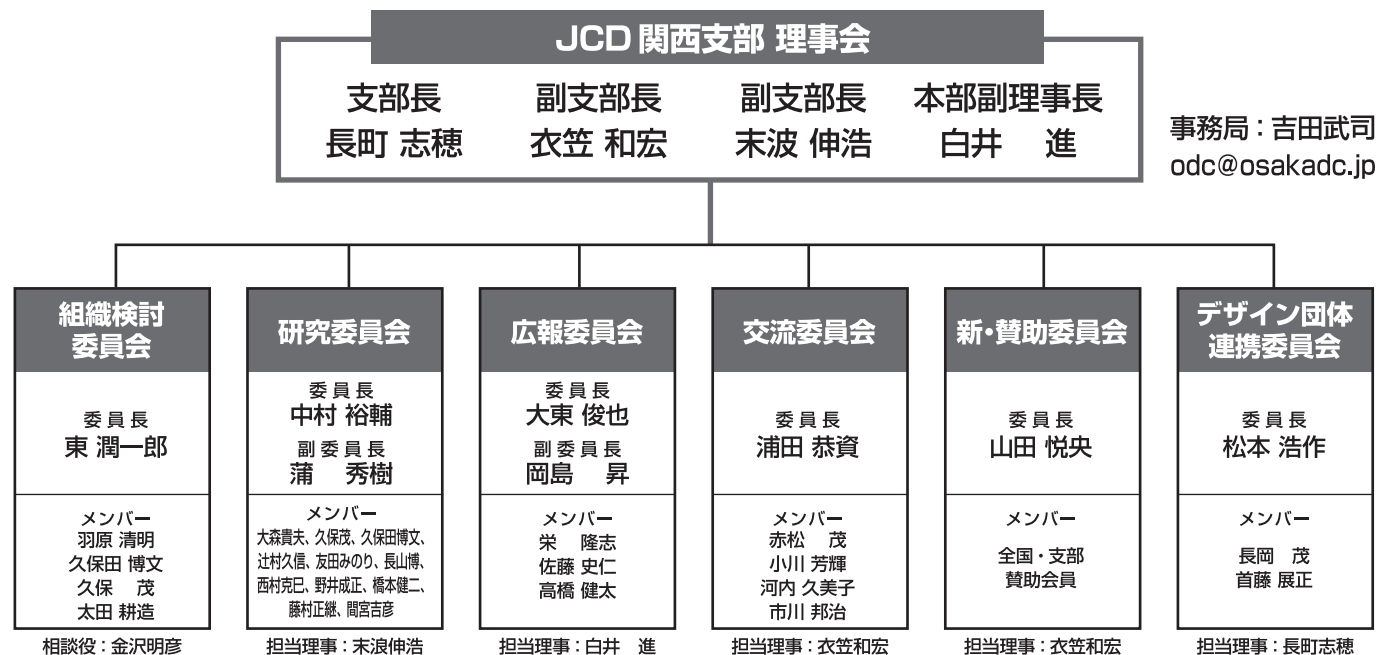
委員長：松本浩作 相談役：山田悦央/長町志穂

各デザイン団体との関係強化

大阪デザイン団体との交流を通じてのデザインビジネスの積極的な参加、及び関西のまちづくりに対する取り組みへの組織づくり。

- ・関西学生シンポジウム
- ・日本の空間デザイン展

2014年度（一社）日本商環境デザイン協会・関西支部 組織表



2014年度 関西支部総会

副支部長 末浪 伸浩

6月16日(月)、会場は昨年同様「中央電気倶楽部」にて17:00より関西支部総会が開催されました。

本部総会議決事項及び事業報告後、二期目となる長町支部長より、支部決算及び昨年の活動報告～詳細を交えた事業報告～渉外活動報告が為され、今年度の組織報告と委員会活動の概要が発表されました。引き続き「組織検討委員会」、「研究委員会」、「広報委員会」、「交流委員会」、「新・賛助委員会」、「デザイン団体連携委員会」以上6つの各委員長（又は代行者）から活動の骨子が伝えられました。

『JCD関西の見える化』そして『デザインによる社会貢献』をより現実的なものとする為、各委員会の役員役割を明確化した組織構成です。50年を超える歴史を持つJCD関西のこれからの見据えた“ジュニア会員”、“シニア会員”の創設に向けての手法や枠組みも検討されるとの報告もありました。新たなところでは、支部長を全面的に補佐していただく「支部内部代行」として、長年本部理事及び関西支部支部長を務めてこられた山田評議員に更に御尽力いただくことも発表されました。

18:30からは会場を3階に移しての賛助会員のPR会の開始です。

各社熱のこもったプレゼンテーションをしていただき、いつもの事ながら感謝の念を抱くと共に、正会員との更なる関係性を強める事業の推進の必要性を感じました。

19:00から始まった懇親会では岡部賛助委員会副委員長の乾杯の御発声の後、新入会員の紹介を挟み、正会員、賛助会員とも歓談が進み、野村監事に締めのお言葉を頂戴する閉会までの約2時間が和やかに流れる2014年度の支部総会でした。

<JCD関西 2014年度 支部総会>

日時：2014年6月16日(月)
 総会 16:30～
 懇親会&賛助会員PR会 18:30～21:00
 場所：中央電気倶楽部
 参加者数：50名



2014年 日本の空間デザイン展

デザイン団体連携委員会 委員長 松本 浩作

去る11月20日から26日の間、うめきた・グランフロント大阪にあるサンワカンパニー 大阪ショールームをお借りして、「日本の空間デザイン展」が開催されました。

これはJID, SDA, JCD, DSAの4団体から各々ジャンルごとに開催されたコンペティション「2014JID賞ビエンナーレ」・「SDAサインデザイン賞」・「DSA空間デザイン賞」・「JCDデザインアワード2014」の優秀作品を一堂に集めた作品展で、これは日本の空間デザインの潮流を知るだけでなく若手クリエイターや学生、さ

<2014年日本の空間デザイン展>

日時：11月20日(月)～26日(金) 11:00～19:00
場所：グランフロント大阪 サンワカンパニー 大阪ショールーム
来場者数：合計342名

らに社会にも広くデザインも情報を発信することで、空間デザインを通じた住環境への意識を高めることを目的としています。

述べ7日間で一般276名、関係者24名、学生42名、合計342名の来場者で賑わいました。



2014年 大阪勧業展

デザイン団体連携委員会 委員長 松本 浩作

去る10月23日、24日とマイドーム大阪にて「大阪勧業展」が開催されました。

大阪商工会議所、堺商工会議所、大阪府商工会連合会主催のイベントで大阪デザイン団体連合さんとの連携でJCDも参加しました。

中小企業のためのデザインに関するデザインセミナーをはじめとして、USD-O団体の中でも特にJIDAさんをメインに、デザインに迷える関西企業に対する取引やアピールができるようなデザイン団体の職能をアピールできる場として参加いたしました。2日間で7,612名の来場者がありました。

<2014年大阪勧業展>

日時：10月22日(水)10:00～17:00 24日(金) 9:30～16:00
場所：マイドーム大阪
来場者数：2日間合計7,612名

出展はJIDAより推薦の、アドリアカンパニー、インターデザイン研究所、きづきデザインラボの3社の他、USD-O加盟団体紹介ブースにJCDの紹介ブースを設営しました。

その他、関連イベントで中小企業のためのデザインセミナーや出展社3社のセミナーを開催しました。



関西デザイン学生シンポジウム2014

デザイン団体連携委員会 委員長 松本 浩作

今年もデザイン4団体の共同イベントの一環で「関西デザイン学生シンポジウム2014」を10月17日(金) 18:00～21:00の間でうめきた・グランフロント大阪にあるサンワカンパニー「大阪ショールーム」にて開催しました。

このイベントはJID関西ブロックを幹事役として上記デザイン3団体に加え、後援として大阪デザイン団体連合(USD-O)が参加、サンワカンパニーさんをはじめとして多くの関係者にご協力をいただき開催することが出来ました。今回はマチデコールやリビングデザイン展等のデザイン関連イベントの時期と一致していた事や、同じサンワカンパニー大阪ショールーム特設会場にてJIDA主催「椅子展」が同時開催がされており、相乗効果としての来場効果も期待されました。

シンポジウムのファシリテーター(司会役)に玉井恵里子さん(JID会員/タピエスタイル代表)、コメンテーターはJID理事/建築翻訳家/スタジオOJMM 代表 牧尾晴喜、JCD/JA/laboratory 代表 東潤一郎、JIDA理事/(有)インターデザイン研究所 上田幸和を迎え、自由な発想で考えたプレゼンテーションが行われました。

テーマは「お・も・て・な・し・の・デ・ザ・イ・ン」。これまでの学生シンポジウムは、「笑い」「絆」「超」「カワイイ」などのテーマで、プレゼンテーションを開催してきました。今年は学生の皆さんが考える「おもてなし」とは何か?外国の方々のための「おもてなし」、日本人のための「おもてなし」などを提案しました。

近年この「おもてなし」という言葉は先般、次期東京オリンピックの招致の際に日本のプレゼンテーションに使われた言葉として、あれ以降よく耳にする言葉となり、日本のみならず海外でも通用する言葉として一般的に使われるようになってきました。

この「おもてなし」の意味合いも受ける側、与える側で大きく違いが出る言葉で時代や社会の変化、世代、男女の違いなどによっても使い方も受け止め方も違いが表れており、デザインにおけるマーケティングにおいても重要なキーワードとしても位置づけられています。

そんな「おもてなし」をテーマにどの様に学生たちが感じ、それをどの様に自分たちの世界で具現化表現したか等の活動を紹介しながら、日本における「おもてなし」についての論議がなされました。コメンテーターとともに、それぞれの立場でのこのテーマを語り合い、世代を超えた価値

<関西デザイン学生シンポジウム2014>

日時：10月17日(金) 18:00～21:00
場所：グランフロント大阪 サンワカンパニー 大阪ショールーム
司会：玉井 恵里子(JID)
コメンテーター：牧尾 晴喜(JID)、東 潤一郎(JCD)、上田 幸和(JIDA)

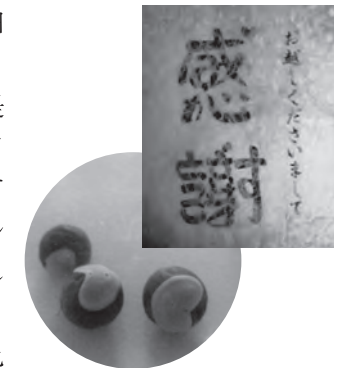
あるシンポジウムとなりました。

その後20:00からは学生と現役デザイナーたちとの交流会も行われ、JID、JCD、JIDAとの若さあふれる有意義な懇親の場となりました。

パネリストとして参加した学生は、JIDA推薦の神戸女子大学家政学科住環境デザインコース大学の岡田彩花さんをはじめ、斉藤さん、浜田さん、牧本さん、松本さん、田中さん等女性ならではの提案がなされました。中でも日本独特のホテル旅館のおもてなしをテーマに企画、ホテルにおけるおもてなしを提案しました。中でも掛け軸のありがととなぞった「感謝」色紙が印象的でした。JCDは大阪モード学院インテリアデザインコースの家田さんをはじめとするメンバーでの提案。ハートの形をしたおもてなしの種が来場者に配られました。

JID推薦の大阪芸術大学デザイン学科プロダクトデザインコースの阿武さんらと、神戸芸術工科大学プロダクトデザインコースの大崎さん、井上さんらの女性グループの女性らしい視点からのプロダクトデザインの提案、発表がなされました。

各々約10分程度の短い時間でのプレゼンテーションで時間を気にしながらではあったが、それぞれの世代、性別などからの感覚的な解釈や考えが出て、参加した私自身も改めて今回テーマの奥深さを実感したシンポジウムとなった。次回はJCDの幹事役で開催予定です。



夏休み！親子de体験セミナー こどもたちと創る空間

研究委員会 委員長 中村 裕輔

●商店街視察

セミナー会場のある天神橋筋商店街の視察を行いました。6グループに分かれ各2件ずつお店に伺い、商品を眺めながらお店の人と話をしました。子供たちの目にはあまり行ったことのない老舗のお店は非常に新鮮に映ったようです。又、お店の人との話から模型創りに何らかのヒントを得た子供も多かったようです。

見学の後は、お店に売られている商品をピックアップし、値段当てクイズを行いました。グループごとに競い合い、ワイワイガヤガヤ相談。リラックスして後の模型創りに取り組むことが出来ました。

参加者は子供24名(小学生)、保護者21名で合計45名の方に来ていただきました。



<夏休み！親子de体験セミナー こどもたちと創る空間>

日時：2014年8月23日(土) 10:30～16:30
場所：大阪市立住まい情報センター3階ホール
参加者：小学生24名、保護者21名で合計45名

●ワークショップ 模型でお店をつくろう！

今年で4回目の実施のワークショップの開催です。こどもたちそれぞれの自由な発想を生かして商店街に並ぶような小さいお店を創りました。模型の大きさは40cm四方程度でスケールは約1/7。

まず、何屋さんを創るのか決めて、マテリアルを選びながらイメージを膨らませて作業を進めてもらいました。又、最後に照明をセッティングするので、照明の光り方や色もサンプル模型を見て意識してもらうようにしました。

日頃あまり見たことがないであろう本物の建材を手に取り、本当に楽しそうにマテリアル選定を行い、先を争って気に入ったものを手に入れていました。面白いのは、実際によく使用されるスタンダードなものより個性の強い物が大人気。一番人気はヴィヴィッドな色のモザイクタイルでした。

短い作業時間でみなさんの作品が完成できるが心配していましたが、保護者さんの力添えもあり、ほぼ全員の子供たちの作品が完成しました。

完成した後は講評を行い、何人かのこどもたちに自分のお店の自慢したいところやこんなお店にしたかったということを発表してもらいました。

最後にはみんなで作品を並べ商店街をつくりました。

アンケート調査で大多数の参加者よりお礼の言葉をいただき、盛況にセミナーを終了することが出来ました。



JCD関西支部 上方落語界 林家市楼氏によるトークショー&懇親会

交流委員会 委員長 浦田 恭資

今年は上方落語界からのスペシャルゲスト、天満天神繁昌亭で活躍中の林家市楼氏をお招きし、トークショーを行いました。

喋りの技術でお客様を喜ばせる落語家は、私たちの仕事における会話をより良いものにするヒミツがあるのでは!?との趣旨で企画し、落語家に学ぶ「おもてなし」の極意と題して、お話いただきました。

林家市楼さんは若手ながらも力強い高座で玄人客を唸らせるほどの腕前です。今回のトークショーでは、心を掴むはなし口調や舞台裏での苦労話から高座における「おもてなし」を語っていただきました。

会場には初めて落語を聴く方、そうでない方がいるとのことで、笑いを交えながら落語の基礎知識から教えていただく内容から始まり、普段落語を聴いた事無い方も簡単に話に引き込まれていきました。

その中で“落語の噺がどれだけウケたのかというのは、どれだけお客様の想像力を掻き立てることができたのか”というお話がありました。私たちの仕事に当てはめると、例えばプレゼン時、どのようにし



<上方落語界 林家市楼氏によるトークショー&懇親会>

日時：2014年12月2日(火) 18:30～21:00
場所：レストラン コンタクト
参加者数：正会員13名、賛助会員27名、会員外5名 合計45名

て相手の想像力を掻き立てるか—という、相互理解が一見難しそうな異業種間でのコミュニケーションを潤滑にするヒントをいただきました。

最後には古典落語の「時うどん」を披露していただき、大盛り上がりでトークショーを終了、その後は懇親会パーティがスタートしました。

会員以外にも JCD の活動に興味を持っていただいた初参加の方々、OBの方々、会員事務所のスタッフなど幅広い人達にご参加いただき、ビュッフェ形式でおいしいお酒と料理を楽しみながら終始にぎやかなムードで皆さんに交流を深めていただきました。

次回も交流委員から楽しい企画をご提案しますのでご期待ください。

JCDデザインアワード 2014 総評

審査委員長 橋本 夕紀夫

商業デザインの役割とは何であろうか。今年のJCDデザインアワードの入賞作品をみて、改めてそんな問いかけを試みたくなった。

それぞれの作品は一見すると非常にバランスがよく、上質なものが多かった。しかしよく見てみるとなかなか挑発的なのである。例えば「Sunny Hills at Minami Aoyama」は造形的には極めて美しいが、これを半ば暴力的に街中に出現させてしまっている。「日本橋木屋本店Izutuki」は、商品とそれを売る為の店との関係をこれ以上はないくらいにギリギリのところまで密接なものとしている。「W広州フェイ」は最近あまり見なくなったゴージャスで派手な空間を卓越したセンスで品格のあるものに昇華させている。「茶酒金田中」は見るからに使い勝手の悪そうなレイアウトながら、非常に趣味的な世界観をつくっている。茶室のような緊張感を醸し出しながら、ここを訪れる客にどうだ、と挑みかけているようである。「Unite」は限られたスペースの中に大掛かりなトリックを用いて人の知覚を惑わす非日常的空間を作り上げている。「身体の家/スタジオGHOST」は

建築の躯体そのものをショーケース化して、建物そのものを巨大な商品のような存在にしている。

これらの作品に共通して言えるのは、常識化してしまった様々なセオリーに疑問を投げかけ、人の知覚を刺激しているということである。当然、商空間は物やサービスを売る為の空間なので、いかにその目的を達成するかということが大切である。ただ、それにあまりにもとらわれてしまいすぎると、いつの間にか流行にとり込まれてついついどこにでもあるような平均的な環境がつくられてしまいがちである。そして、そんな状況が長く続いていたような気がする。

商空間は、まだ誰も気づいていない新しい概念や価値観があるということ、人々に知らしめるための発動装置である。そしてそれが商空間の持つ社会性であり、やがて新しい文化を作りあげていくための役割を担っていくという事につながると思う。今回の受賞作品を通じてこのような事を感じたわけであるが、ひとつ残念なのは、大型商業施設にまだそういった兆しが見えてこないことである。

大賞 リボンチャペル

株式会社 NAP 建築設計事務所 / 中村拓志 ■広島県尾道市

総評でも述べたが、今年のJCDデザインアワードの入賞作品は、明解なコンセプトによりメッセージ性の高いものが多かった。ともすると商業デザインはその時代の雰囲気のみ込まれて、流行を追い求めたり、すでにある何かと何かを組み合わせて何となくそれっぽいものを作ってしまうが、今回の入賞作品は、そういった崩壊的デザインを打破するものばかりであった。そして改めて商業におけるデザインの意義を問い直しているかのように見えた。

このところ、癒しとかホスピタリティとかいうような抽象的な概念で空間がつくられるケースが多いが、もっと積極的にそれぞれの空間の言語をもっといいのではないだろうか。そこにしかない特別な体験ができるということも商業空間の大きな役割である。

大賞に輝いた中村拓志氏のリボンチャペルはその特別性が、特に際立っていた。2本のリボンが二重螺旋状に重なり合うようにつくられた空間は、独特の個性を持ちながらもそこを訪れる人達に上昇的な気分を与えるようなエモーショナルな環境づくりがなされている。挙式を前提としたチャペルであるが故に成り立つ、説得力のある造形であると言えるだろう。このように一見特殊なデザインを成立させる為には必然性がなければならない。そしてその必然性とは商空間と人がどのように関わって欲しいかという明解で強い意志によってもたらされるものである。

(講評: 橋本 夕紀夫)



Photo/Koji Fuji-Nacasa and Partners Inc

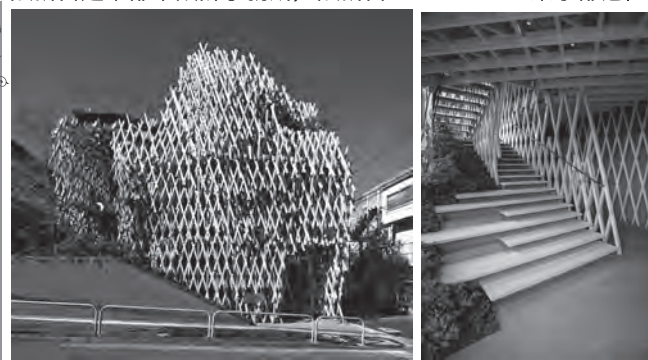
●選考点数一覧表

	応募総数			入賞点数
	国内	海外	計	
1 ショップ空間	75	9	84	3
2 食空間	94	14	108	5
3 大規模商空間	16	4	20	3
4 サービス・エンターテイメント空間	68	6	74	5
5 文化・コミュニケーション空間	39	2	41	4
6 公共生活空間	128	18	146	7
合計	420	53	473	27

	大賞	金賞	新人賞	審査員賞	銀賞
1		2	(1)		1
2		2			3
3					3
4	1	1	(1)	(1)	3
5			(1)		4
6		1	(2)	(3)	6
	1	6	(5)	(4)	20

金賞 1 Sunny Hills at Minami-Aoyama

隈研吾建築都市設計事務所 / 隈研吾 ■東京都港区



1 日本橋 木屋本店 izutuki

萬代基介建築設計事務所 / 萬代基介 ■東京都中央区



2 茶酒金田中

株式会社新素材研究所 / 杉本博司 + 榎田倫之 ■東京都港区



2 W広州 フェイ

株式会社乃村工藝社 A.N.D. / 小坂竜 + 齋藤玲子 + 竹内宏法 ■中国広東



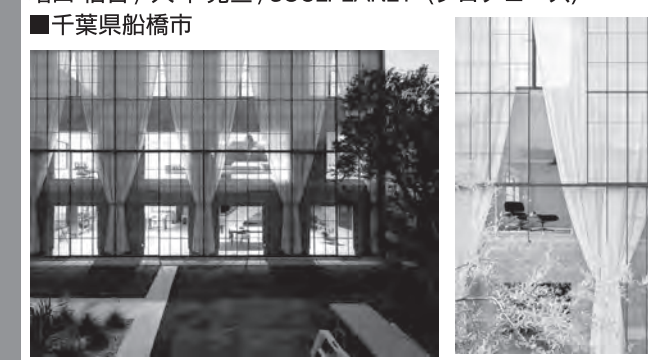
5 Unite

タカラスペースデザイン株式会社 / 湯口巖 ■東京都渋谷区



6 躯体の窓 / スタジオ GHOST

増田 信吾 / 大坪 克亘 / SOULPLANET (プロデュース) ■千葉県船橋市



組織検討委員会の活動について

組織検討委員会 委員長 東 潤一郎

組織検討委員会の活動内容は、会員増強の強化策の検討です。

現在関西で活躍しているデザイナーへの積極的な入会案内、将来の入会のきっかけ作りとして「ジュニア会員（仮称）」、OB会員の受け皿として「シニア会員（仮称）」の創設について協議を行って来ました。

「JCD ジュニア会員（仮称）」

参考として、現在ジュニア会員制を運営されている公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）の羽原様からJIDA 学生会員＝JIDA ジュニアの活動の現状についてお話を伺いました。毎年、JIDA 正会員の在籍する企業に協力願い「産学共同プロジェクト」を開催し、学生会員に参加させているそうです。企業側よりテーマを与え、その課題を学生会員が半年掛けて検討し、提案するといったものです。

学生会員の提案内容を月1回チェック・指導し、最終の仕上げに向けて終盤に「合宿」を開催し、提案を完成させているそうです。正会員の担当者は全てボランティア的に携わっているとの事でした。

2014年度 広報委員会 活動報告

広報委員会 委員長 大東 俊也

本年度、広報委員会は「JCD Kansai の情報の発信と記録」という二つの柱を軸としてスタートしました。

「情報の発信」という部分では、JCD 関西支部が行う各種イベントを会員だけにとどまらず多くの人に情報発信をしようと試みました。具体的には、ホームページやフェイスブックといったSNSを使い、イベント前に情報を発信しました。この部分は、なんとか出来たと思っています。さらに、情報発信として、正会員の情報や賛助会員の新品PR等も行ってきたのですが、ここはまだ改良の余地があると感じています。



広報委員会定例会風景(2015.3.2 グランフロント大阪 ナレッジサロンにて)

「シニア会員（仮称）」

OB 会員を登録する意味や、その位置付けなどについて、山田評議員にもご参加頂き、検討致しました。またその際、山田様より氏の入会の頃の JCD のお話を聞かせて頂き、組織として魅力のある当時の活動状況を知る事が出来ました。

「そして課題」

現役デザイナー、そして「ジュニア会員」枠創設による若い世代、会員増強を検討するほどに見えるのが、「組織の魅力・役割」です。創設時より時代は流れ、デザインの潮流もさることながら、社会やコミュニケーション手段が大きく変化しています。私達が日頃の業務で、時代のニーズを捉えるのと同様に、ニーズを捉えた組織を我々の手でデザインしなければならないと実感しています。



「情報の記録」という部分では、JCD の機関誌はまとめたものの、イベント後すぐにタイムリーな形で記録が発信出来ませんでした。

今後は、ライブ配信等も考慮に入れて、JCD 関西の魅力を外・対内に広めていき、組織の活性化を図っていければと考えています。

一年間ありがとうございました。



JCD関西支部 ホームページ

JCD関西支部 フェイスブック ページ

斎藤 俊二 Shunji Saito

株式会社スペース

商業施設を中心にあらゆる「商環境」の企画・デザインをさせて頂いております。刻々と変化する時代を掴み、クライアントの本質を見出した「商空間価値創造」をすることを意識し活動しております。時代は情報社会です。デザインひとつとっても、全て真の情報により様々な「かたち」へと変化させなければならない時代であると感じ、JCD 会員の皆様と情報交換をさせて頂きたく、入会させて頂きました。今後ともに宜しくお願い申し上げます。



株式会社スペース
商環境研究所 所長 斎藤 俊二
〒550-0004
大阪市西区鞠本町3-8-10
TEL:06-6444-7210
http://www.space-tokyo.co.jp



Working Now

ライティングデザインの現場から生まれた、マックスレイのフラッグシップモデル。

InFit LED Ø135



高効率なLEDでありながら、従来光源のような反射鏡制御による光。輝度の高いLEDでありながら、グレアの少ない快適な光。ライティングイメージにフィットするサイズ、ベストな光のバランス、そして、豊富な配光バリエーション。代表モデルであるInfitφ85のコンセプトを受け継ぎ、機能や構造、フレキシビリティの面において、さらなる進化を遂げたハイエンドモデル「Infitφ135」。



maxRAY
A Harmony of Light and Space

http://www.maxray.co.jp
照明器具の専門メーカー マックスレイ株式会社

大阪支店 大阪市城東区鴨野西4-6-22 〒536-0014
TEL.06-6967-0123 FAX.06-6967-0837
東京 大阪 名古屋 福岡



KOIZUMI LIGHTING OPERATION STUDIO (KLOS) THE PLACE OF THE CREATION OF WHICH IT COMPLAINS TO SENSITIVITY.

LED照明提案型施設「KLOS」は、全長100mのブラインドと650mのデザインウォール(カーテン)で外光を制御し、施設全体で光のあり方を表現しています。「光」を共通言語にあらゆる垣根を越えて、さまざまなヒト・コト・モノが交わる(クロスする)場でありたいと考えています。「KLOS」から放たれる新たな光をご体験ください。



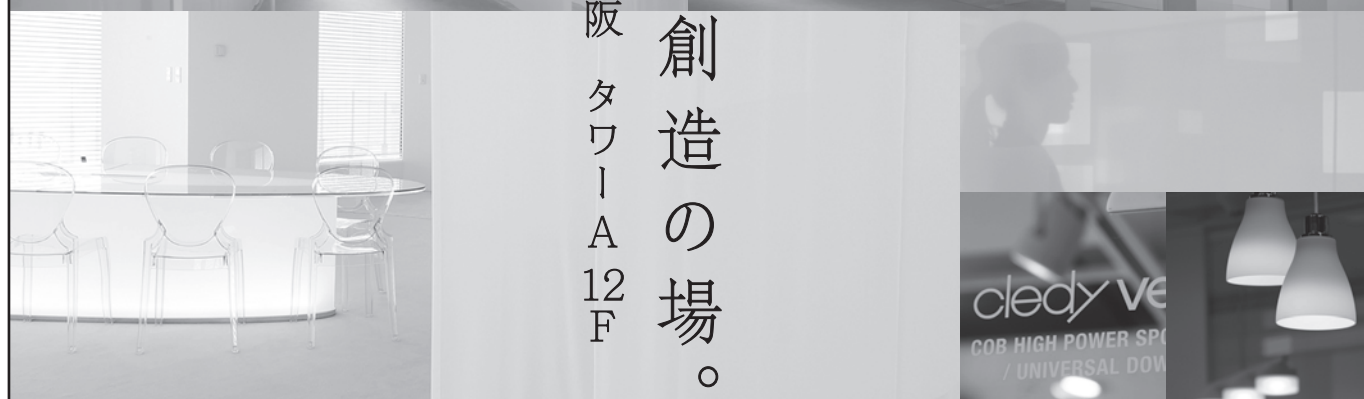
THE 12TH FLOOR OF THE GRAND FRONT OSAKA



PRODUCTS ZONE



CORPORATE ZONE



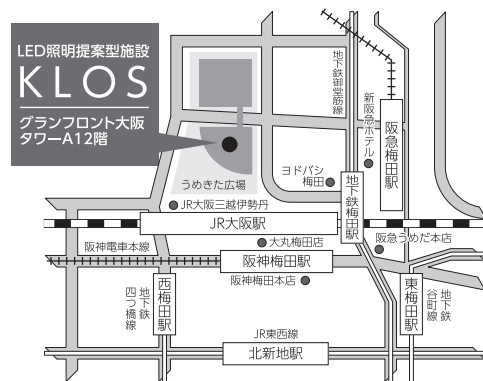
感性に訴える創造の場。
グランフロント大阪
タワーA 12F

ACCESS

〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町4-20
グランフロント大阪 タワーA12階
TEL:06-6485-5211 FAX:06-6375-0222
開館時間:10:00AM~6:00PM (予約制)
休館日:水曜日(但し祝日、祭日の場合は営業)
年末年始・夏期休暇

◎交通案内
公共交通機関でお越しください。専用駐車場はございません。

12階への直通エレベーターはございません。南館2階タワーA
オフィス入口より、9階スカイロビーでエレベーターを降り、
低層バンク用(11階~18階)に乗り換えて、12階までお越しください。



無線コントロールシステム
Smart LEDZ

光環境を最適化
個別制御だからレイアウト自由自在
無線制御だから信号線が不要
最大80%以上の省エネ



コープ岡本
施主:生活協同組合コープこうべ
内装設計:株式会社スペース



AOKI 渋谷宮益坂店
施主:株式会社AOKI
設計:株式会社西園一部デザイン事務所



BAYFLOW イオンモール岡崎店
施主:株式会社トリニティアーツ
設計:株式会社ファースト



商品と空間の価値を高める
純白やささまざまな色を鮮やかに発色
スーツのわずかな色差を明確に表現
商業施設のための光、誕生

▶▶▶ その光を、ショールームで体感してください。

大阪・本社ショールーム

TEL:06-6267-7015

〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町 1-6-9



Panasonic

その光は、 照明にも 映像にもなる。

「商品や空間を照らす」と「情報や映像を映す」を一台で。
SpacePlayerが「プロジェクション・ライティング」という
新演出を可能にします。また、配線ダクトにつなぐだけで
設置でき、照射角度の調整も簡単です。



GOOD DESIGN
AWARD 2014

**BEST
100**

- 光出力:1,000 lm ○入力電圧:AC100V 50Hz/60Hz
- 消費電力:125W ○重量:3.0kg
- 寿命:20,000時間(初期の50%の明るさになるまで)
- 推奨映像解像度:1,280×800
- レンズ:電動ズーム(1~2.2倍)・電動フォーカス
- 接続端子:HDMI(19P) 1系統HDCP対応LAN(RJ-45)
1系統ネットワーク接続用 PLink(class1) 対応
100Base-TX、10Base-T
- 本体のみでSDカードの静止画・動画再生が可能
- 無線LAN:IEEE802.11a/b/g/n
ワイヤレス伝送技術「Miracast」対応
- 音声出力端子:M3ステレオミニジャック
- HDMIは、HDMI Licensing LLCの登録商標です。



一般的なライティングとして使用

プロジェクション・ライティングとして使用

Space Player

スペースプレーヤー



実際の使用例を動画で
ご確認いただけます。

画像はイメージです。

パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 マーケティング本部 都市環境商品営業企画部
〒105-8301 東京都港区新橋1丁目5番1号 TEL.03-6218-1131(代表)

スペースプレーヤー | 検索

Wonders!
by Panasonic